主人が考えて選んだリゾートのようなホーム。そこには「どうしたの？」と言い合える安心感が

伊豆高原〈ゆうゆうの里〉　佐藤 友記様（74歳）　平成31年3月　一人入居
佐藤 まゆ美様（67歳）　令和2年4月　一人入居

兄が連れて来た友人の一人が友記さんでした

ご主人　大学時代に知り合った友人に呼ばれて、何度かお宅を訪ねたことがありました。

奥様　うちの兄はけっこう人を家に呼ぶんです。その一人が友記さんでした。私一人が女の子だったので、ご飯を出す時には、よく母を手伝っていました。次第に何となく結婚を意識するようになりました。

ご主人　工学部を出てから政府の関係機関で技術開発を進める仕事をしていました。例えば半導体の発光ダイオードの製品開発。ノーベル賞の赤崎先生にもお世話になりました。実用化・製品化した時は本当に嬉しいものです。

奥様　私は子育てまでの5年ほど保育士をしました。私の保育園時代、質問に答えた私に先生がニコッと微笑みを返してくれて嬉しかった。そのイメージが焼き付いていて自分も保育士になりたいと。

ご主人の趣味、バードカービングの作品たち

主人の選択を信じてよかった！

ご主人　老後を考えたきっかけは、家内の両親の介護ですよ。私たち二人は介護に携わった訳ではないのですが、義兄が10年位両親の面倒をみました。「これは無理。私にはできない」と。では、自分達の介護を娘に頼んだら、娘家族はどういう結末になるのだろうかと思いをめぐらせました。結論は「娘に頼っちゃいけない」。だから、「自分たちにできることは、元気なうちに入っちゃうことだ」とホーム選びの勉強を始めました。ここの入居者の菅野さんの本『老人ホームの暮らし365日』を読んでからイメージが明確になりましたね。

奥様　私は正直まだ早いと何も考えていませんでした。主人は一人で色々探した結果、伊豆高原〈ゆうゆうの里〉が良いと思ったんでしょうね。「どう？」と聞かれたときには、主人の提案を信じるだけでした。信じてよかったと思っています。ここはリゾートみたいじゃないですか。ここは画期的に、私の老人ホームのイメージを崩してくれました。

ここはバードウォッチングに最適

ご主人　退職して何か始めたいと思っていたときに、バードカービングに出会い、凝り性の私はすぐに始めました。しかし、鳥の色とか形とか何となくわかっても、細かいところまでわからない。それで鳥を見ようと思ったのがバードウォッチングのきっかけです。鳥を見始めたら、今までは「あ、鳥だ」くらいだったのが、全く見方が変わりましたね。北海道は利尻島から南は石垣、宮古島まで、珍しい鳥や渡り鳥を求めて日本の各地を回りました。

奥様　最初は私の方が鳥に興味があったんです。名前を覚えたくて「図鑑を買おう」と話しかけた時は、全く相手にしてくれなかった主人ですよ。それが今ではどっぷり。

ご主人　ここは最高の環境です。近くの一碧湖や松川湖は良いスポットです。冬の時期だとオシドリやマヒワという鳥がいますね。伊豆の野鳥愛好会にも入って、一緒に観察会や季刊誌を出す活動も楽しみになっています。

別々の居室で見つけた二人の新しい生活スタイル

ご主人　はじめは一緒のお部屋に入居するつもりでしたが、結果として別々の居室を契約しました。

奥様　こうしてみると、今はお互いが相手を気にせず、一番に自分のことを考えられるようになりました。

ご夫婦　ほどよい距離感が保てています。

奥様　入居してから地震とか津波とか心配がなくなりました。ここには入居者の方も職員の方もたくさんいて「どうしたの？」と言い合える安心感があります。家事や育児など、全て肩の荷が下りて、今が一番ホッとしています。新たにやりたいことを見つけたいな。